

懸案の伊勢、神戸、高知などの長期、大型データの収束が続いていますが、ここへきていままで減衰していなかった【広島】が急に減衰してきており、また【沖縄のうるま市】に幅のある大きなデータが出現してきており、新たな変化が出てきています。

<広島の急な参戦—同期して収束へ>

前にもお伝えしたように、前回、高知市介良のデータが収束したのは2016年4月で、熊本地震が発生しました。その時は途中まで広島中区のデータも同期してきていましたが高知より約半年前に、先に減衰しています。つまり2014年12月に広島中区と高知市介良(B449)によく似た大きなデータが出現して約1年間つづき、広島中区のデータが先に2015年11月で減衰しています。その後も高知市介良(B449)のデータは続き、2016年4月14、16日に熊本地震M6.3, M7.0が発生しています。

<震源は関西か九州か、それとも2つの大地震か?>

今回はいままで広島のデータに同期が見られなかったことと、伊勢の2つのデータや神戸のデータが同期して収束してきたことから、予想震源域を九州でなく東側の関西地方と考えていました。しかしここへきて広島のデータが急に同期して減衰してきたことから震源が2016年の時と同じように九州になる可能性も出てきました。仮に震源を九州とした場合、高知と同期して収束してきたように見えた伊勢の2つのデータと神戸市灘区のデータからは関西地方の別の大地震を捉えている可能性が考えられます。

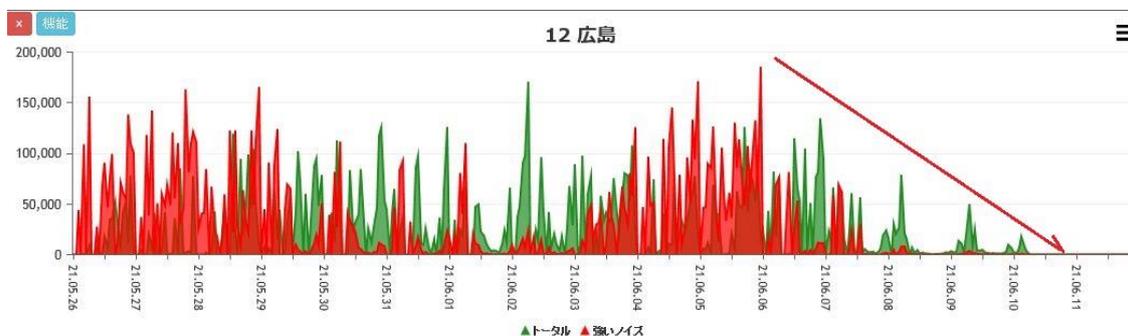
そうした状況から 念のため、九州、熊本—大分地域にも警戒をお願いしたいと思います。

<沖縄から伊勢D484の同期した1本立ちは何を意味するか?>

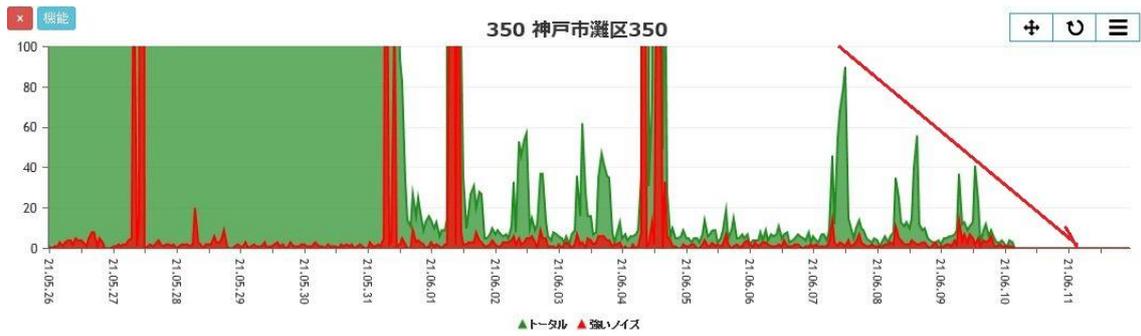
このような距離のある同期したデータはめずらしいものです。下記の地図で位置関係をみると、南から、沖縄—種子島—高知—伊勢—八王子へと続き、日本列島の南側を約半分を占めています。仮にこの範囲で何らかの異常が起きているとすると、南海トラフ関連しかありません。いままでも南海トラフ関連の地震の可能性に触れていますが 今回の広範囲のデータからみて さらなる警戒が必要と考えます。

以下に関連のグラフなどを載せます。

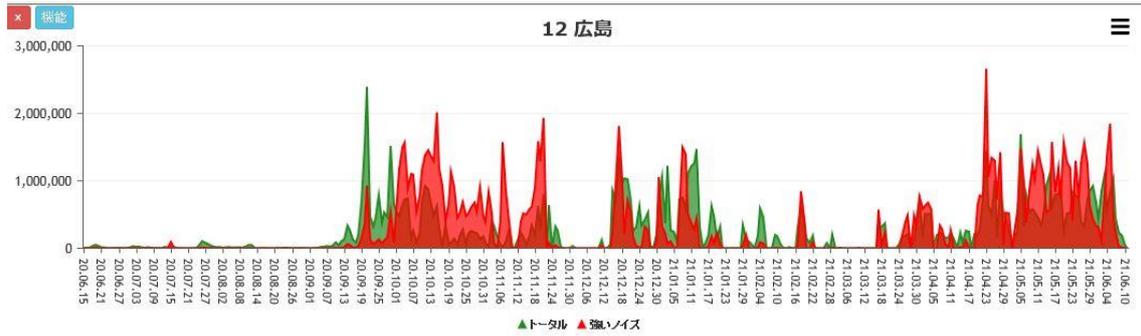
変化① 広島の収束 広島15日間データ



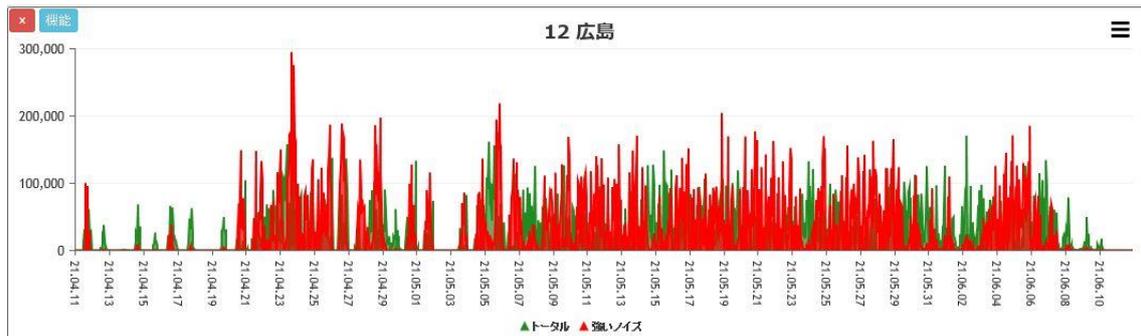
神戸市灘区 15 日間データ



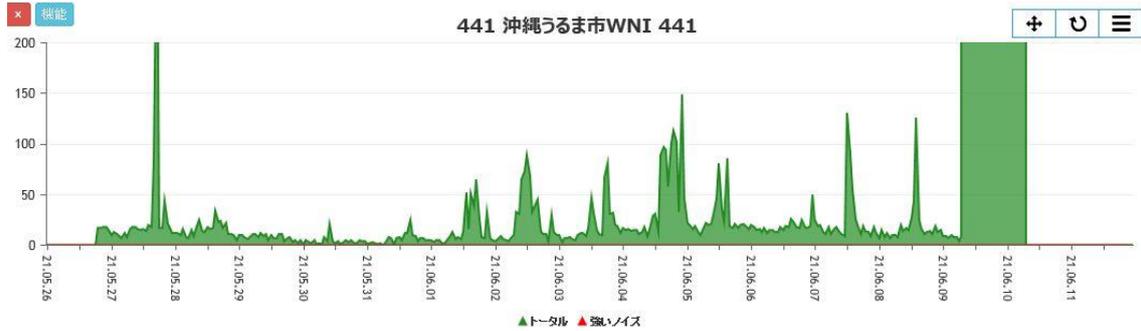
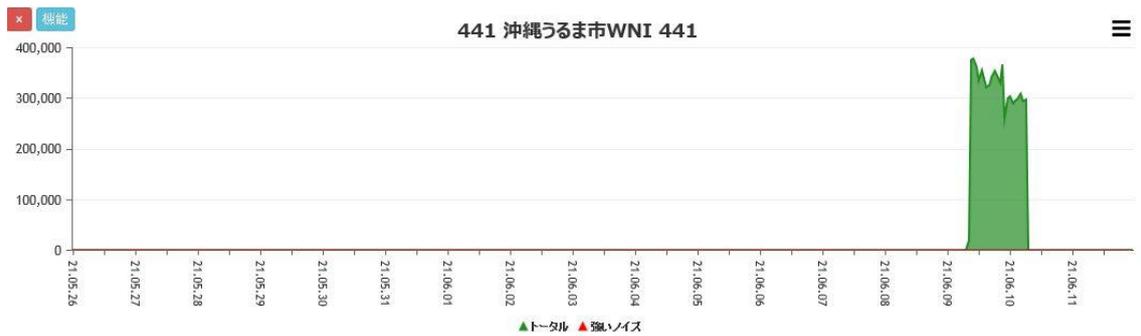
広島市の長期データ 360 日間 (日毎) データ



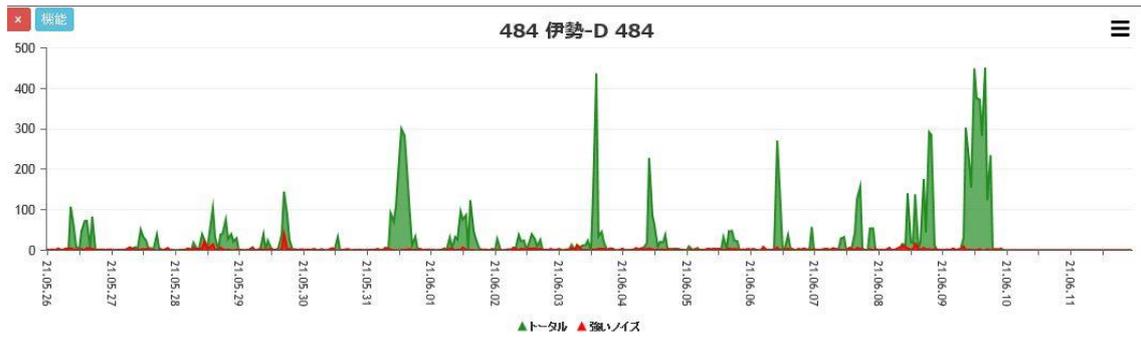
広島 60 日間データ



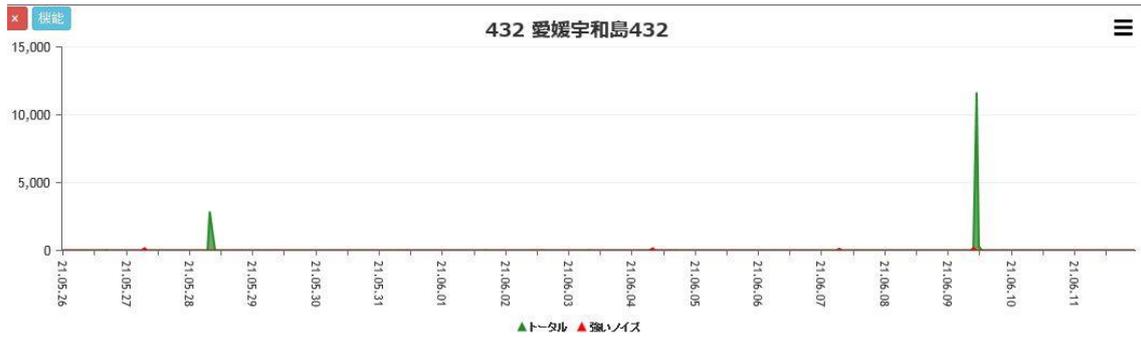
変化② 沖縄の大きく幅のある 1 本立ちの出現 > 沖縄 うるま市 15 日間データ



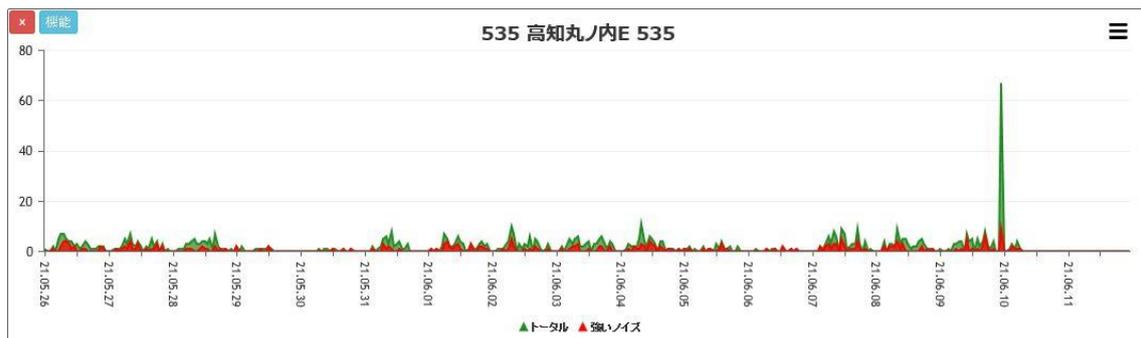
伊勢D484 15日間データ>沖縄と同期した1本立ち



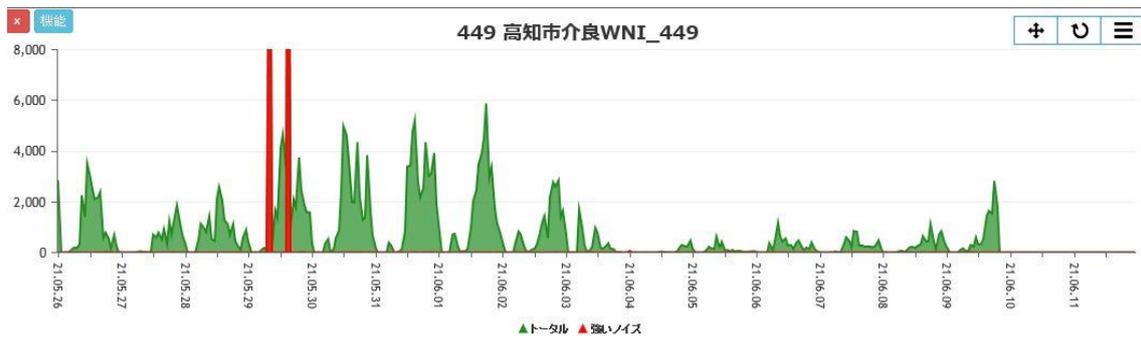
愛媛 宇和島 15日間データ



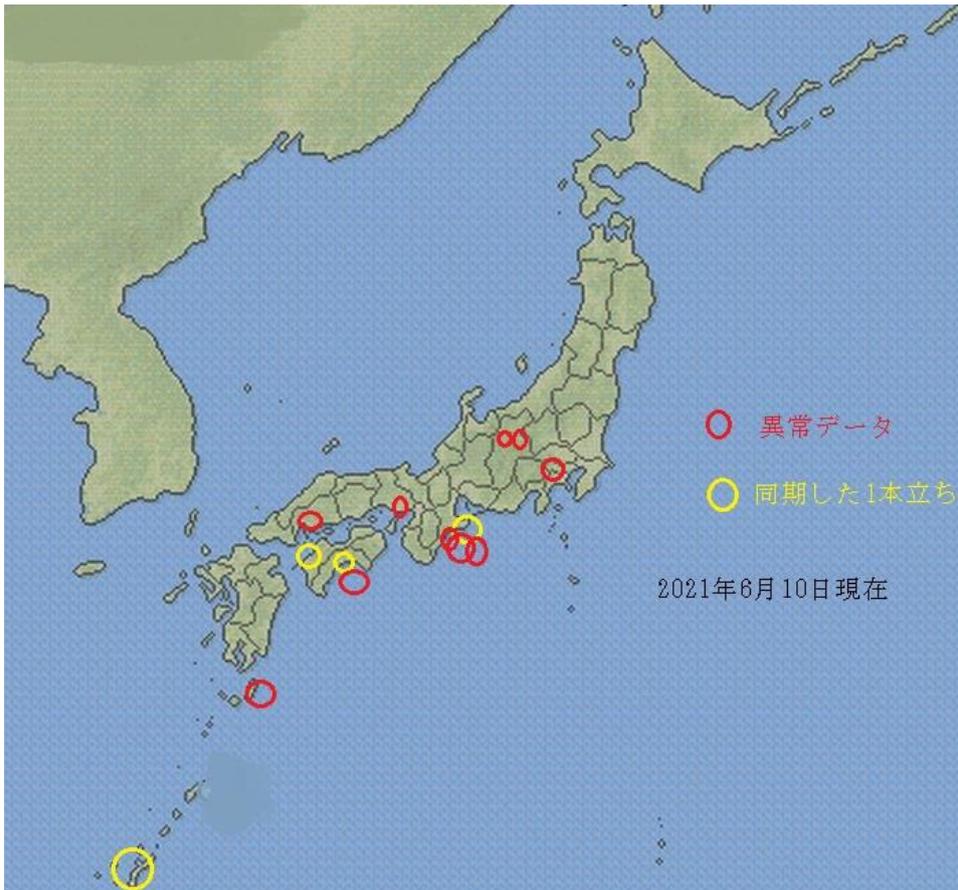
高知 丸の内 15日間データ



高知市介良 15日間データ



位置関係 >



6月の月齢 6月10日が新月 >

PREV 2021年6月の月齢 NEXT

2021年 6月 表示

日	月	火	水	木	金	土
		1 20	2 21	3 22	4 23	5 24
6 25	7 26	8 27	9 28	10 29	11 1	12 2
13 3	14 4	15 5	16 6	17 7	18 8	19 9
20 10	21 11	22 12	23 13	24 14	25 15	26 16
27 17	28 18	29 19	30 20			